

五皆カハリタル香トキケバ、卍如此圖ヲ名乗紙ニ書キ、一四カハリ、二三五同香トキケバ、卍如此書キ、一二同香ニテ、三四五カハリタル香トキケバ、卍如此書キ、一三同香、二四同香、五ハカハリタルトキケバ、卍如此書キ、一三同香ニテ、二四五同香トキケバ、卍如此書ナリ、餘ハ是ニナラフベシ、如此キ、タルオボエ次第ニ圖ヲツクレバ、自然ト五十二ノ圖出來ルナリ、系圖香ハ、四炷ナリ、一炷ヲ一包ツ、ニシテ、合十六包ヲ打交テ、其内四包ヲ次第ニタキ出ス、キキヤウ圖ノツクリヤウ、源氏香ニ同ジ、是モ自然ト、十五ノ圖出來ルナリ、

〔深緑〕源氏香

一香五種、一二三四五也、試なし符なし試する法も有る名乗紙を用ゆ、外に香の圖一冊有又香の圖の印五十二、井印關等添へて有るは、いよ

一香組、右の五種を五切づ、出し、合貳十五包、外包に入置、

一炷様香本、外包をひらき、廿五包を一ツによくくませ、五包を取て炷出す、殘は外包におさむ小包籠にさし、次第を亂す事なし、次

一聞様五種き、終らばよく思慮すべし、先一番二番の香同じく、三四五番に出たる別々の香とき、たる時は卍此圖にあたれば空蟬なり、又一番と三番と同香にて、二番と四番別の同香出、五番目一種また別の香なる時は、卍此圖なれば花散里なり、又五種ともに別々の香ときく時は、卍此圖にて籌木なり、是は次第のごともし又五種ともに同香ときくときは、卍此圖なれば手習なり、但此二圖の通に出たるなり如此圖源氏物語卷々の名を加へ、五十四帖の卷頭卷軸を除き、五十二有り、准じて心得べし、

一聞定たる時、圖をひらき能見合、名乗紙に聞所香圖を書き、下にその卷の名を書なり、略する時は、或は圖ばかり、又は卷の名ばかり、又は一二附にても書後に執筆よきやうに改め記録する、